

「学び続ける姿をみて」高知短大卒業生展

2025年10月20日～25日高知市“かるぽーと”で開催

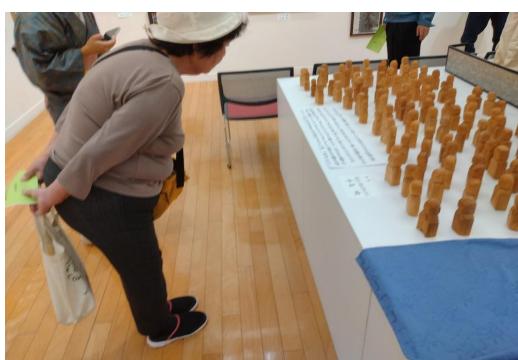
高知県立短期大学は夜間大学であった。戦後まもなく開校し、勤労青年、子育てが終わった方々、高校卒業の公務員が学生となった。高知城のお堀の近くの校舎の明かりに下で、皆、熱心に明るく楽しく学んでいた。しかし高知県は高知女子大学を男女共学の高知県立大学に移行し、そのなかに夜間部を設置ということになった。組織上は短大は継続されたことになったが、昔の雰囲気は消えている。老いつつある元学生達が、毎年、この展示会を開催し、仲間達が集う場となっている。

満洲で亡くなった開拓団の子供達の木造地蔵を展示

1945年8月9日、突然のソ連軍の満洲侵攻によって、満洲にいた江川崎分村開拓団の人たちの避難行が強いられた。そのなかで、多くの人達の生命が失われた。当時、分村に住んでいたひとと一緒に避難行の跡をたどる旅に同行した私は、亡くなった人たちが、今でも、その地に眠っていることを知った。私は亡くなった人たちを追悼する責任があると思った。0歳から15歳で、亡くなった赤ん坊から子供達の数は109名。この子供達のお地蔵さんを彫ることで、慰靈をすることにした。友人、知人、子供たちなどたくさんの人に関わってもらった。戦後80年、戦争は、まだ、終わっていない。それぞれの地蔵さん像には、子供たちの年齢と底には製作者の名前が書かれた。

合掌

中島 晓 2025.10.23 (満洲の歴史を語り継ぐ高知の会 実行委員)



中島 晓

(大野正夫 記)